

今年3回目の利上げへ～米FOMC

2017年12月11日(月)

12月12日、13日に、米連邦公開市場委員会(FOMC)が開催されます。
今年3回目となる利上げ(1.00%→1.25%→1.25%→1.50%)はほぼ確定的。
注目はFOMC参加メンバーによる金利予想や、経済・物価予想(プロジェクション)と
声明及びイエレン議長の会見となりそうです。

声明では、前回同様に経済成長の緩やかなペースでの拡大と、
労働市場の幾分かの力強さを示すと見られ
金利については
FF金利の緩やかな引き上げを正当化する形で進む
という従来表現を踏襲してくると思われます。

議長の会見では、来年2月からのパウエル次期FRB議長による運営でも
緩やかなペースでの利上げが継続することを示すと見られます。

なお、来年1月30日、31日のFOMCは、
記者会見が通常無い回にあたりますので
2月3日で任期が切れるイエレン議長の会見は今回が最後となります。

最大の注目はメンバーによる見通し(プロジェクション)、
中でも来年末時点での金利見通しとなりそうです。
記者会見などと同様に年8回のFOMCのうち、半分の4回で示されるプロジェクション。
9月19日、20日のFOMCで示された前回のプロジェクションでは、
来年末時点での政策金利水準見通しの中央値は
2.00%～2.25%と来年中に3回の利上げを見込む形となりました。

ドットチャートによるメンバーによる予想水準分布をみると
16人の予想メンバーのうち、最大となる6名が2.00%～2.25%を予想。
それ以上が5名、それ以下が5名という状況でした。

一方FF金利先物市場動向から計算された金利水準見通しを見ると
来年中に二回、1.75%～2.00%が37.9%で中央値。
それ以下が35.7%、それ以上が26.4%という状況で、
メンバーの見通しよりも慎重でした。

CMEによる政策金利見通し(CMEFEDWATCH)では
直近12か月という縛りのため、11月7日、8日時点までしか予想がありませんが
そちらもその時点で1.75%～2.00%と、来年中に二回という見通しが37.2%で最も多く
それ以下が39.7%、それ以上が23.7%という状況です。

そうした状況の中、
今回のプロジェクションでどこまで市場動向とのずれが解消されるのかが大きな注目材料です。

なお、9月時点で示された今年年末時点での物価動向は
ターゲットであるPCEデフレーターの前年比で1.6%。
現在最新10月時点と同水準です。
11月時点での予想はまだありませんが、
同様の傾向を示す消費者物価指数をみると、
11月分の予想(12月13日発表)は、10月時点より上昇しており
9月時点で警戒されたほど低インフレ状況が深刻というわけでもなさそうです。

また、9月時点では4名のメンバーが今回の据え置きを予想、
さらに来年一年もずっと据え置きという見通しになっており、
今回の据え置きが考えにくい分、
ある程度の見通しの上方修正がほぼ確実です。

市場見通しとのギャップは解消しない可能性が高く
それどころか広がる可能性までありそうで
結果として、市場見通しが少し上に押し上げられる可能性もあります。
この場合はドル買い材料となります。

経済成長見通しなども併せて、メンバーの見通しに要注目です。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、
正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属
し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社みんかぶ